



平成28～令和2年度 科学研究費補助金 基盤研究 (A)(一般) 課題番号16H02051

高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する  
教育測定論・認知科学・比較教育学的評価

# 研究総括

東北大学高度教養教育・学生支援機構 教授  
研究代表者 倉元 直樹

## 研究総括構成

1. 今後の予定（実績報告書等）
2. ホームページ
3. 研究成果報告書
4. 研究の振り返り
5. まとめ

2021/2/19

入試科研 最終研究会「研究総括」

2

## 今後の予定（実績報告書等）

- 実績報告書・成果報告書
- おそらく、**5月中旬頃**までに提出？
- 令和2年度分の研究成果を記載
- 研究成果報告書 + **追加で申告**を！
  1. **謝辞に本科研費を明記した研究成果**を掲載
  2. ホームページに掲載した研究成果が基本
  3. その他の関連業績は【参考資料】として掲載

2021/2/19

入試科研 最終研究会「研究総括」

3

## ホームページ

- ホームページ ← 本研究の最大の特徴

<http://www.adrec.ihe.tohoku.ac.jp/>

- 今後も継続して存続させる予定
  - 「メンバー」ページに**写真の提供**を
  - 実績報告書提出時頃まではメンテナンスします

2021/2/19

入試科研 最終研究会「研究総括」

4

## 研究成果報告書 (1)



- 研究成果報告書は昨日 (2/18) PDFで納品
  - 科研費ウェブサイトに掲載済 (247MB)
  - 今後100部印刷して送付予定 (一人 **2冊程度**)
- 内容
  - ウェブサイト掲載の研究成果から【参考資料】を除く
  - 基本的に中間報告書 (H30年度発行) を含む
  - 全体で414頁

## 研究成果報告書 (2)



- 研究成果報告書の構成
  - はじめに ← 書下ろし
  - 以下、**年度ごと**に章を構成
  - 第1章 平成28年度研究成果 (5編)
  - 第2章 平成29年度研究成果 (10編)
  - 第3章 平成30年度研究成果 (10編)
  - 第4章 平成31・令和元年度研究成果 (2編)
  - 第5章 令和2年度研究成果 (3編)

## 研究成果報告書 (3)



- 付録
  - **国立大学における個別学力試験の解答形式に関する研究** (ウェブサイト掲載資料)
  - 新聞記事7編
  - 本科研費による出版物のチラシ
- 研究組織・研究経費
- 研究概要
- 研究会記録

## 研究の振り返り (1)



1. 高大接続改革との対峙 (1)
  - **高大接続答申 (2014) の具体化**とシンクロ
  - 本研究計画期間 (2016 ~ 2020年度)
  - 2016年7月：実施方針による改革3本柱 (**英語民間試験、記述式問題、主体性評価**) の提示
  - 同年9月：国立大学における個別学力試験出題形式に関する最初の研究発表 (日本テスト学会)
  - 同年12月：追加分析をHP公表 → [朝日新聞記事](#)

## 研究の振り返り(2)



### 2. 高大接続改革との対峙(2)

- [文部科学省委託事業「国語」](#) (2016～2018年度)
- 新共通テスト(イメージ例)が測定する資質・能力
- 【参考資料】として[英語民間試験](#)との対峙  
→ [共同通信記事](#)
- [主体性評価](#)に関する対応
  - 平成30年度における一連の研究成果

## 研究の振り返り(3)



### 3. [社会に成果を還元する研究](#)のプロトタイプ

- 速報性 ← [ウェブサイト](#)
- 分かりやすさ  
← [大手メディア](#) (全国紙、地方紙) の報道  
[朝日新聞の特集 \(2019年6月～7月\)](#)
- 市民運動的なムーブメント以外の可能性の提示
- 今後の課題: [COVID-19への対応](#) → 研究は続く

## 研究の振り返り(4)



### 4. 研究組織の変遷

- 平成28年度: 27名 (分担者23名、連携研究者3名)
- 平成29年度: 27名 (分担者23名、連携研究者3名)
- 平成30年度: 27名 (分担者23名、連携研究者3名)
- 平成31・令和元年度: 25名 (分担者21名、研究協力者3名)
- 令和2年度: 26名 (分担者22名、研究協力者3名)

## 研究の振り返り(5)



### 5. 本の出版

- 倉元直樹 (監修、編集) [東北大学大学入試研究シリーズ](#) 第2巻「[大学入試センター試験から大学入学共通テストへ](#)」金子書房、2020年3月
- シリーズそのものは別の科学研究費研究 (挑戦的研究 [開拓] 「大学入試学」構築への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて——) の成果
- 現在、第4～6巻準備 (一部、構想) 中

## 研究の振り返り (6)



### 6. 研究会

- ① 平成28年8月9日 研究報告3名
- ② 平成29年5月13日 話題提供1名、研究報告3名
- ③ 平成30年5月20日 研究報告3名
- ④ 平成31年3月14日 研究報告3名
- ⑤ 令和2年2月16日 研究報告3名
- ⑥ 令和3年2月19日 (本日) 研究報告2名

## 研究の振り返り (7)



### 7. 国立大学個別試験入試科目データベース

- 国立大学における個別学力試験出題形式に関する研究が契機
- 国公立大学ガイドブック (大学入試センター) を典拠
- 国立大学個別試験入試科目のデータベース化
- 当面の目標は大学入試センター試験期間
- 1990～2017年度まで、2年間分を残して完成間近

## まとめ (1)



- 基盤研究 (A) : 平成12～14年度 (研究代表者 夏目達也) 以来の大きなプロジェクト
- 当時は、アドミッション・センターが設置された東北大学 → 筑波大学 ( → 九州大学) という予定 : 結果的に2回で中断
- 研究成果報告書採録原稿 (嶋野 [2003] ) を本 (シリーズ第1巻) の第2章に再録

## まとめ (2)



- 研究成果 : 自己評価としては悪くはなかった
  - ① 研究成果の随時ウェブサイト掲載という方式
  - ② ウェブサイトから研究成果報告書を容易に編集
  - ③ 研究組織 : 研究分担者それぞれの活躍
  - ④ 研究成果物の量と機能
- 今回の「研究総括」は代表者、事務局サイド
- それぞれのご意見・ご感想は後ほど

**5年間、どうもありがとうございました。  
今後ともどうぞよろしく  
お願いいたします。**



# 大学入試センター試験から 大学入学共通テストへ

倉元直樹 編

## 大学入試センター試験が廃止になるまで、 何が議論されたのか？

センター試験が廃止される。それは突然起こった出来事だった。誰もが想定しなかった事態がなぜ起きたのか。忘れられる前に記録しておくべき事実がある。

金子書房

大学入試研究の広場の一環を紹介し、  
「大学入試学 (admission studies)」の必要性和有効性を訴える新シリーズ

## 東北大学大学入試研究シリーズ

倉元直樹 [監修] 各著 A5判

様々な議論を呼び起している大学入試改革。  
大学入試研究における第一人者たちが、  
大膽な視点で大学入試を抜本的に設計するべき方向を導き、提示する。

### 大学入試センター試験から大学入学共通テストへ

倉元直樹 [編]  
2017年11月20日発行

大学入学共通テストの発想に向けて、旧センター試験の成立から廃止へのプロセスを学問的に追ひ、大学と高校の取るべき方法を探る。

2014 (平成 26) 年 12 月に告示された「大学入試センター試験に代わる新たな大学入試制度の構築」に基づき、2016 (平成 28) 年 1 月に開催された大学入試センター試験の廃止に関する「大学入試改革推進会議」からは大学入試としての共通テストが大学入学共通テストへと改題される。大学入学共通テストでは、従来のセンター試験で実施されていた「基礎力・基礎学力」の測定から、高度な学力を測定する「総合的知識と能力の測定」を導入し、従来の試験の学習・習得した知識の外部評価を導入するとなっていた。しかし、この改革には従来の試験とは異なり、その後の評価がなかなか決まらず、受験生と教員も混乱した。大学では、学習が滞っている。そもそも、センター試験にどのような問題で、どのような問題が設定し、評価に繋がったのか。そのプロセスを学問と学問的に追うことにより、大学と高校が取るべき方法を提議できよう。

- CONTENTS
- 第1章 大学入試制度変遷の追跡
    - 第1章 旧センター試験の歴史
    - 第2章 大学入学共通テストの導入とその背景
    - 第3章 共通テストの試験内容と特徴
    - 第4章 共通テストと大学入試センター試験
    - 第5章 共通テストに導入される新しい科目と課題
  - 第2章 大学入学共通テストの試験内容
    - 第1章 国語・社会科における共通テストの試験内容
    - 第2章 共通テストにおける外国語の試験内容
    - 第3章 共通テストにおける数学の試験内容
    - 第4章 共通テストにおける理科の試験内容
    - 第5章 共通テストにおける英語の試験内容

